

点訳通信

33号

盲人情報文化センター 点字製作係
550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2

06-441-0015 FAX 06-441-0039

私の点訳ライフ

点字との出会い

丸山順介

私は1992年に本店勤務となり、単身赴任しました。社会環境室で93年10月に点字教室が始まると聞き、早速申し込みました。会社がPC-98ノートに10台支給し、講師の先生も墨田区の「きつつき」から来てもらい、20名の参加(月謝は個人負担)でスタートしました。月2回の講習で、あいうらえれりおろ、かろく、さごろー、たみこ、なみ、はんさむ、まさごろー、...と唱えながら、なれない六点入力に取り組みました。駅等に表示してある点字が読めるようになって、うれしかったものです。切れ続きの課題をフロッピーで提出するのですが、まっかっかで返ってくる状態が続いたものです。94年10月からは月1回集まって、後期の実作に取り組み、文庫本の『中吊り広告』を10人で分担し、プリンターで出した墨字を交換して校正しました。2校・3校までやり、皆のフロッピーを連結して、きつつき本部で点字をアウトプット、全4巻の点字本が完成した時には皆で祝杯をあげたものでした。95年10月からは自主運営の「きつつき」支部となり、『クローゼットの中のシスター』の全5巻を墨田区のみどり図書館に納めました。

図書館から依頼された出版ニュースの点訳や急ぎの点訳・校正の手伝い、会社の社会環境室の催しのパンフレット点訳等しているうちに、キーボードを見なくても打てるようになっていました。

96年10月に大阪に戻り、点字と縁がなくなりましたが、校正の依頼をされた機会に、東京出張の折、秋葉原で中古のパソコンを5万円で買いました。パソコン点訳をやっているところが大阪にないかと探しているうちに、日本ライトハウスがあると知り、98年3月、木村さん・森さんに、お

手伝いしたいと申込みました。テスト・講習を受けないとダメだったのですが、「点訳したものを出して下さい」と言われ、たまたま読んでいた『右脳歌唱法』を20ページ程出しました。「もう一回」と言うので、「ダメかなあ」と思ったのですが、あと80ページ提出して、森さんと読み合わせしました。森さんから、「まあいいでしょう、金曜日に来て下さい」と言われ今に至っています。しばらく遠ざかっていたので、悪戦苦闘、といった状況ですが、よろしく御願います。

お知らせ

増補改定版『最新点字表記辞典』について

新しい表記辞典についてはお問い合わせが多いのですが、各曜日担当のスーパーバイザーの方々に種々検討して頂いた結果、現行のルールと大幅に異なる部分があるので当センターとしては上記辞典を分かち書きの拠り所とはしないことに決定しました。

現在、『点訳のてびき』と併用することで、分かち書きの判断基準となるような資料の検討をしており、今しばらくお待ちいただきたいと思えます。

なお、以前お配りした「運用表」のような資料の制作は考えておりませんので、併せてお知らせいたします。
(点字製作係)



勉強会

墨字の“ちょっと変わったおもしろい表記”を
どう表現するか

12月10日(木) 13時～15時 9階ホール

9月29日に「点訳者挿入符」についての勉強会が開かれました。例文をもとに出席者から出された処理例、森さんからのアドバイスなど以下にご紹介いたします。なお、点訳者挿入符は《 》で表わします。

「問題」

日本語には同音異義語がよく出てきます。必要な時に音声訳者が補足しますが、補足する場合、熟語の意味からかけはなれた説明は誤解をあたえます。以下の文章で、漢字を説明しているもので最も相応しいと思う番号に 〇 を付けてください。

「あるものを精確に写し取る」という時は「精確」の方の熟語を使うが、いかにもその状態を表していると感じた。

- 1．セイカクのセイは精神のセイ、カクは確立のカク
- 2．セイカクのセイは精密のセイ、カクは確実のカク

【点訳例】 トキワ 「セイカク《セイミツノ セイ、 カクジツノ カク》」ノ
ホーノ ...

手始めに音訳者用の問題を点訳の立場で考えました。説明に用いる語の選択は難しいものですが、この問題は全員正解で2。

[例1]

「応対」を「応待」と書き誤る人は、小学生よりも中学生、中学生よりも高校生というふうに年代が進むにしたがって増え、大学生や一般人では全体の半数近くに達するという数字が出ている。
これは、「接待」という意味を付与して考えるためだと分析されている。

【点訳例】 「オータイ《タイスル》」ヲ 「オータイ《マツ》」ト カキアヤマル ...
1行目の「応対」「応待」は入れたい所ですが、「接待」には入れる、入れない、判断の分かれるところです。また、「オータイ《タイメンノ タイ》」「オータイ《マツ》」とするよりは【点訳例】のように語の対応を考えて選択する方がよいでしょう。

[例 2]

まいかと思って手元の『現代国語例解辞典』を引いてみると、それぞれに例があった。

A、御清聴ありがとうございました

B、御静聴願います

これが例解辞典のありがたいところで、語釈と例文とから、Aは主として自分の話について言い、Bは自分の話についても他人の話についても言えることがわかる。だから、例えば司会者がAの文脈のことを言う場合は「御清聴」ではなく「御静聴」の方がよい場合がある。

「御清聴」と「御静聴」とは同音語ではあるものの別語として使い分けられていくだろうが、

2、3行目【点訳例】

A. ゴセイチョー《セイワ キヨイ》 アリガトー ゴザイマシタ

B. ゴセイチョー《セイワ シズカ》 ネガイマス

点挿が必ずほしい例で上記のように入れるのが良いでしょう。点挿内は《セイワ キヨラカ》も考えられる。なお、ゴセイ《キヨイ》チョー と該当する語の直後に入れる方法もありますが、森さんによると読みづらいそうです。

6行目【点訳例】 「ゴセイチョー《キヨイ》」デワ ナク 「ゴセイチョー《シズカ》」ノ ホーガ ...

最初の説明で入れた《セイワ》の部分は省いて良いでしょう。

最終行はどちらにも点挿は不要です。

[例 3]

よく演出術のなかで「指導は始動だ」ということばがある。すべて最初が大事、エンジンを始動させるのには最大のバッテリーが消費される。綿密な仕かけの術で子どもにやる気を起こさせる。そのためには幅広い始動のレパートリーと、かくし玉が教師のふだんの研修のなかで用意されていなければならない。読書、演劇、映画、生きることの知恵やそのための仕かけ術は、専門以外のところに多くある。この吸収が何よりも大事である。

1行目【点訳例】 「シドーワ シドー《ウゴカシハジメ》ダ」ト イウ ...

点挿内は《ウゴキハジメ》でも良いでしょう。指導には不要。2行目のエンジンを始動させるのにはの始動にはいらぬが、3行目、幅広い始動のレパートリーの始動のところには必要です。この例では、シドー《シワ ハジメ、ドーワ ウゴク》という書き方はお勧めできません。

[例 4]

ヒメ ヒメ(姫)は「日女」の意味である。『古事記』では、大方「比売」と書くが、いくつかは「日売」もある。ヒコ(彦、比古、日子)は、ヒメのおこと版だ。『日本書紀』に天照の別名としてある「大ヒルメ」も同類だ。ヒルメは「日の女」の意味である。ヒルメのルがだんだん落ちて、ヒメになったに違いない。ヒルメの男版はヒルコだ。

1行目【点訳例】 ヒメワ 「ヒメ《ニチ オンナ》」ノ イミデ ...

ヒメ(姫)のヒメは(姫)のルビと見做して点挿をいれない。点挿内は《ニチト オンナ》も可能ですが、《ヒ オンナ》とすると火と混同する恐れがあり好ましくない。以下、「比売」は「ヒメ《クラベル ウル》」、「日売」は「ヒメ《ニチ ウル》」など。

2行目、ヒコ(彦、比古、日子)の個所はカッコと点挿符が続くのは避けたいので、この場合カッコを省いて点挿符だけ、またはカッコだけのどちらかにする。

【点訳例】 ヒコ《カンジ 1ジ、 クラベル フルイ、 ニチ コ》ワ、 ヒメノ ...

【避けたい点訳例】 ヒコ(ヒコ《カンジ 1ジ》、 ヒコ《クラベル フルイ》、...
点挿内は《カンジ 1ジ》の代わりに《ヤマヒコノ ヒコ》なども考えられる。

[例 5]

・ 「記念」から「記念」へ
古いお寺や神社の境内には「 記念碑」と「××記念碑」とが並んでいるのを見かけることが多い。大ざっぱに言うと、明治・大正の石碑には糸偏のものと言偏のものが混在していて、昭和以降の新しいものは圧倒的に言偏である。
明治・大正時代の国語辞書を見ると、掲げる漢字は「記念」「記念」両様あり、大正十四年初版の『広辞林』は二つを並べている。その順序が「記念・記念」であり、続く子見出しでは「記念絵葉書」「記念会」・・・「記念碑」「記念日」と糸偏のみを採っているので「記念」を標準形と

【点訳例】 2. 《イトヘンノ》 「キネン」カラ 《ゴンベンノ》 「キネン」エ

これまでの例では点挿を単語の後ろに入れていましたが、この【点訳例】のように単語の前に入れる使い方もあります。もちろん、「キネン《イトヘンノ キ》」カラ「キネン《ゴンベンノ キ》」エ とするも可。

この例文では記念、記念それぞれ多く出てきますが、読んでみると見出し以外に必要と思われるのは5行目の その順序が「記念・記念」であり 1個所と思われる。

【点訳例1】 「キネン《イトヘン》・ キネン《ゴンベン》」デ ...

【点訳例2】 「《イトヘンノ》 キネン・ 《ゴンベンノ》 キネン」デ ...

[例 9]

ところが、いろは四十七文字を見ると、訓読みが元になっているのはわずか四字だ。

止(と) 乃(の) 部(へ) 女(め)

これはどうしたことだろうか。たしかに全体として、元の漢字は字画が少ない。そのほうが簡略化しやすかったのだろう。しかし字画のせいだけとも思えない。なぜなら、「を」は「遠」が元になっている。「遠」よりは「男」のほうが字画は少ないのに、使われていない。

3行目【点訳例】 ト ノ ヘ メ

この例など原本が一般書か専門書かで対応も違ってくると思います。勉強会でもさまざまな意見がでましたが、字の説明はしなくて良いのではということになりました。本格的に説明を入れるとすれば、立体コピーなどが必要になるのでは、というのが森さんの意見。

6行目【点訳例】 「ヲ」ワ 「エン《トオイ》」ガ モトニ

[例 1 0]

落語家の春風亭一柳は、前名を三遊亭好生という。師匠の三遊亭円生に破門され、春風亭柳橋門下に入った。そして円生が亡くなったあと、昭和五十五年十二月に上梓の『噺の咄の話のはなし』にこう書いて物議をかもした。

3行目【点訳例】 『ハナシノ ハナシノ ハナシノ ハナシ』ニ コー カイテ
ブツギヲ カモシタ。 《ハナシワ、 クチヘンニ アタラシイ・クチヘンニ デル・
ワ・ カナガキ》

この例の場合、点挿は不要という意見もありました。

[例 1 1]

それには三つばかりの方法がありますが、その第一が「熟字訓」。「五月雨」と書いてサミダレと読んだり、「時雨」と書いてシグレと読んだりする例です。

【点訳例】 「5ガツ アメ」ト カイテ サミダレト ヨンダリ、 「トキ アメ」ト
カイテ シグレト ヨンダリ スル ...

[例 1 2]

図3を映すと、「これだったら言える」という声上がる。「だれか知ってる人いる？なんていう名前かな」とうながすと、「オオムラサキ」と答える。「オオムラサキ」。そうそう。このごろテレビなんかに出るでしょう？これがオスです。いま、ちょうどきれいに光っている。

図の扱いですが、ズ 3 《ショーリャク》ヲ ... とその都度書く方法もありますが、初めに《ズワ ショーリャク》とする方法もあります。

[例 1 3]

ところが、僕らがいろいろ調べていたら、一九六三年の時点で、これならアフガニスタンに入れそうだということになったわけです。それで、ワイアットさんと一緒に行こう、ということで出かけました。

写真が描かれています

まず、アフガニスタンの首都カブールというところまで飛行機で行きました。そこから馬で一週間かかりました。車はあるけれど、当時まだ道も整備されていないし山だから入れない。石がゴロゴロしててね。

図7 アンジュマン峠
キャンプ地

馬で四千メートルぐらいの高いところまで行くわけです（図7）。夏でも雪があるこの山は五千メートル以上でしょう。こういうところにね、すごく珍しい、まだだれも採ったことのないようなチョウがいるのです。

[例 1 2]と同様 《シャシンワ ショーリャク》と最初に断り書きを入れます。写真に添えられたキャプションは次のように処理するのも良いでしょう。

【点訳例】イク ワケデス（ズ 7 アンジュマン トーゲ キャンプチ）。

以上、模範例ではありませんが、処理の参考にしてください。

点訳者挿入符の勉強会という性格上、挿入符を入れた方が良くないと考えられる例が中心になっています。が、点訳者挿入符をどこに、どのように入れるかという問題の前に、果たして点訳者挿入符が必要かどうかという点を検討してみてください。

原則的には、「同音異義語で、点訳者挿入符で補わないと文意を誤解される恐れがあったり、文意が十分に伝わらない恐れがある場合」と、「漢字の表記そのものを問題にしている場合」に必要になります。

いずれにしても、点訳者挿入符は原文を中断するものですから、その使用は最小限に、挿入の内容は的確かつ簡略なものにするよう工夫してください。（森）